

市民クラブ 市川 哲夫 議員

公共施設の在り方

(質問) 市内小学校プールの活用策として、学校プール開放の運営に地元関係者等に参画してもらってはどうか。

(答弁) 学校プール開放運営事業は、児童の体力づくりと健全育成などを目的とし、プール開放運営委員会へ委託している。

全国的に、プール開放に関する重大な事故が起こっていることを受け、平成25年度から

モニタリングを実施しており、本年度より誓約書の提出と監視員全員の水着着用を依頼した。結果的に実施校は7校にとどまったが、地元関係者などに参画いただくことで、小学校プールの活用策の一助になる可能性があると思われる。本事業が水中での活動であることから、水着着用をはじめとした監視体制を整えた上で実施することを前提に、今後の本事業の在り方を検討していく。

その他の質問 ○F1レースのイベントについて

公明党 船間 涼子 議員

健康事業の取り組みについて

(質問) 市民の健康維持と増進、また病気を抑制する取り組みとして、健康事業に参加することでマイレージ（ポイント）を貯めて景品などに交換する楽しみをプラスした「健康マイレージ事業」の導入について伺う。

(答弁) 健康マイレージ事業は、「生涯を通じた健康づくり」を推進するため、市民が自主

的・積極的に、健康づくりに取り組むことを目的に、40歳以上の市民を対象に、健康マイレージの事業として、健康診査・がん検診の受診、本市が実施する救急健康フェアや各種健康講座・教室などへの参加や、ウォーキングや禁煙など、自ら設定した健康目標の達成に向けて、チャレンジする仕組みを検討している。

健康づくりの一層の推進に向け、健康マイレージ事業の早期実現に向けて、検討を進める。

その他の質問 ○高齢者の交通手段の確保について

自由民主党 鈴鹿市議団 山中 智博 議員

医療の提供体制について

(質問) 鈴鹿市の平成29年中の救急出動件数は、前年の8,726回を超え過去50年間で最多の予想。市内の1次、2次の医療機関が連携して対応しているが、入院の必要のない患者の搬送が6割を占め、高度な医療を提供する2次や市外の病院にも数多く運ばれている。そんな中、鈴鹿中央総合病院は11月1日から1病棟を休床したが、救急の受け入れ体制は十分か。

(答弁) 病棟の休床は一時的なもので、救急医療調整会議で対策を協議している。救急患者の受け入れに支障が出ている状況から、当番日の調整や、回復した患者のための「後方病床」の整備など、必要な医療が受けられる救急医療体制の構築に努めたい。救急隊は、傷病者の状態を判断するトリアージ能力をさらに高め、“ワンコール”での病院選定につながるよう医療関係者と日頃から顔の見える関係を築くなど、患者の負担軽減に努めたい。

鈴鹿の風 平野 泰治 議員

地域づくり協議会制度の推進

(質問) 地域づくり協議会の制度設計は進んでいるのか。今後の市政運営や、総合計画2023の実現へ向け、この制度が鍵を握るとの全庁的な当事者意識や危機感が欠けているのではないかと。今後、どう進めるのか。

(答弁) 市長が本部長を務める地域づくり推進本部で、全庁一丸となって地域づくり支援

制度の構築に取り組んでいる。予算制度は、地域に関連する補助金、公民館の運営委託料、自治会事務委託料、事務局体制を支援する事務局費、また加算分としての業務委託などの予算を盛り込むものとし、自治会事務委託料を除き、平成30年度から第一段階として交付する予定。さらに、協議会を地域の代表として、全ての住民が地域づくりの構成員であること、また協議会と行政の関係を表す条例などの規程を平成31年度に施行する。

その他の質問 ○防災危機管理体制について